

Information

グループホームの入居者募集中！

現在、アパートタイプの「ハーモニーやまなみ1号」と女性専用のグループホーム「ハーモニーやまなみ3号」に空室があります。見学、体験就入居等のご相談を随時受け付けていますのでお気軽に下記までご連絡下さい。

TEL 0279-54-2947 (松岡・小林・安田まで)

就労継続支援B型事業所の利用者募集中！

山脈の運営する3つの就労継続支援B型事業所「みやま工房」「キッチンハウスみやま」「麦のゆめ」では、一緒に働く仲間を募集しています。

就労継続支援B型事業所は、「就職に向けて働く習慣を身に付けたい。」「就職はまだ自信がないけど働いてみたい」「昼間、活動する場所が欲しい」「友達や仲間が欲しい」と言った方にご利用頂けます。

見学、体験就労、ご相談等、随時対応しておりますのでお気軽に下記までご連絡下さい。

みやま工房 TEL 0279-54-2947 (小野・佐藤)

キッチンハウスみやま TEL 0279-20-5817 (船津・大井)

麦のゆめ TEL 0279-25-8866 (芦川・藤本)

令和5年度賛助会員募集中！

「山脈」の設立趣旨に賛同し、私達の活動を応援してくれる方を募集します。一口2,000円で何口でもかまいません。昨年に引き続き、皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い致します。

賛助会員 年会費 2,000円(一口)

山脈ニュースをお届けします

賛助会員になられた方には、毎月、当法人の活動の内容をお伝えする「山脈ニュース」をお届けします。

発行 特定非営利活動法人 山脈 理事長 笹澤 賢一

住所：〒370-3604 群馬県北群馬郡吉岡町大字南下983-2 (みやま工房内)

電話：0279-54-2947 FAX：0279-54-9171

E-mail：rep@npo-yamanami.jp

URL：<http://www.npo-yamanami.jp/>

運営 就労継続支援B型事業所「みやま工房」
就労継続支援B型事業所「麦のゆめ」
就労継続支援B型事業所「キッチンハウスみやま」
グループホーム「ハーモニーやまなみ」1号・2号・3号・5号・6号

(文責：笹澤賢一)

NPO
法人

山脈ニュース

2023.10

No.243

きょうされん第46回全国大会 in 埼玉レポート(その1)

8月30日(水)、31日(木)の両日、「きょうされん第46回全国大会 in 埼玉」が開催されました。山脈からは職員4名と利用者2名が1泊し両日参加し、職員2名と利用者2名が初日のみ日帰り参加しました。



私は、1日目は利用者さんと一緒に埼玉支部WA会企画「さいこうに たのしい まなびのぼ」に参加しました。前半は埼玉県出身の“元祖自前アーティスト、何でも自分でこなす癒し系シンガーソングライター”のさくまひできさんのコンサートからスタート。今大会のテーマソングとなっているさくまさん作詞作曲による「いのち輝け2023」を参加者の皆さんと一緒に歌い、踊りました。その後、埼玉県について学ぶ〇×クイズと「参加者のしゃべりば」がありました。

「参加者のしゃべりば」では、参加者が5つのグループに分かれ円を作り、各グループのリーダーの進行の下、おしゃべりが始まりました。テーマは「生活のこと」「仕事のこと」「趣味のはなし」など様々です。山脈から参加した4人の利用者さん達も積極的に手を挙げて発言していました。

2日目は、ホテルに1泊した2名の利用者さんと「なかまの観光」に参加してきました。私達が参加したのは鉄道博物館を巡るツアーです。利用者のおひとは大の鉄道ファンでしたので、とても生き生きしていました。ボランティアのガイドさんがついて、1時間余り館内を案内してもらったのですが、普段何気なく乗っている鉄道にも歴史や様々な技術が活用されているのだと勉強になりました。利用者さんと楽しい1日を過ごせました。

(ハーモニーやまなみ 職員 笹澤賢一)



きょうされん第46回全国大会 in 埼玉レポート(その2)

きょうされんの全国大会に今回参加でき、全国の事業所の方々と交流できたことは本当によかったです。

1日目で一番印象に残っていることは精神障害者の方のお話でした。その方は障害福祉制度の拡充を訴え、「生活保護基準引き下げ訴訟」別名「いのちのとりで」裁判の原告の一人として約9年戦ってきた裁判において今年の3月さいたま地裁で勝利判決がでたそうです。現在もこの方は障害者権利条約総括所見に基づいた社会保障のより生活しやすいより生きやすい改善を求めています。

2日目は利用者交流はたらく、テーマみんなの仕事を自慢しよう！という会に参加させてもらいました。参加された1人1人の方が自分の働いている事業所を紹介していきました。私も麦のゆめを紹介させてもらいました。事業所の紹介の中で1番驚いたことはB型作業所で月10万円の工賃をもらっている方がいるのは驚きでした。でもそれくらいの工賃が利用者さん一人一人の生活をもっと豊かに楽しいものにしていくのではないのかなと感じました。(麦のゆめ 職員 村岡佑一)

初めて参加したきょうされんの全国大会でしたが、全国から集まった多くの方々の意見を聴くことができ、とても貴重な経験ができました。障害者に対する差別や偏見がいまだに根付いている今の日本で、きょうされんのように支援者と当事者が一丸となれる組織があるということに、改めて心がとても温かくなりました。初日の特別企画のシンポジウムにて、ある方が、福祉労働者に対する思いとして、“障害のある人が、当たり前な生活を送る一番は、家族以外の頼れる人を多く増やすこと”、“家族依存から離れられる環境を”と語っていました。とても強く響きました。私は支援者として利用者の方々にとってどう在るべきなのか、今一度見直していきたいと思います。

多くの議事のなかでも一貫して感じたことは、“当事者主体”を最も大切にしているということでした。これは当たり前のことではありますが、だからこそ忘れてはならないことであると感じます。スピーチのなかでは、何度か「nothing about us without us (私達抜きに 私達のことを決めないで)」というフレーズが使われていました。これはただ当事者を踏まえて決めるということだけではなく、その過程において、当事者の知識と経験を活かして行くことが不可欠であると学びました。障害者であろうと一人一人に権利、尊厳、潜在的能力、平等な機会があります。それを発揮・実現していくために自分には何ができるか、これからも考え続けていきたいと思います。(ハーモニーやまなみ 職員 安田朋輝)

私は2日目の分科会は、国際交流「障害者権利条約を地域のすみずみに」に参加しました。そこで国際障害者権利条約（CRPD）はきょうされんが言ってきたことと一致している部分があるが、第27条「労働及び雇用」の中で作業所の評価として「包括的ではない」、「社会参加を阻害している」と否定的であることを学びました。

総括所見からの指摘としてパターナリズム的アプローチと人権モデルの不調和、分離政策、精神科医療の非人道性と非人権性があがっていることがわかりました。身体拘束は10年で2倍になっているそうです。

ベルギーでは、精神医療改革として当事者の参画が当たり前になっているそうです。当事者がリーダーシップをとれる環境づくりとしてSDGsの利用が有効でないかということを学びました。

「作業所からの次のステップとしてインクルーシブな職場環境を整備しなければ一般就労への移行の加速は難しいのではないか」、「誰かひとりでも取り残される状態であれば、作業所は永遠に無くならないのではないか」と言う話を聞き、自分も同じように感じました。

他の国との違いとして挙げられたこととして「発信力」が大切になってくるとのことなので地域交流等でネットワークを広げ、法人や事務所のことを知っていただく活動が必要になると感じました。

(みやま工房 職員 飯塚玲)

きょうされん第46回全国大会 in 埼玉に参加し、障がいを持ちながら生活する方々を支える同じ気持ちを持つ人達に出会えて事で日々の業務を続けていくうえで勇気をもらえました。

そして、きょうされんの藤井常任理事の基調講演では、障がいを持つ方々の現状などのお話を聞くことができ、大変勉強になりました。キッチンハウスみやまの利用者さんが“わたしの思い、わたしの願い”として大型スクリーンに動画が流れた時は、この願いを叶えるために私自身もの気持ちを新たに頑張ろうと感じました。

(キッチンハウスみやま 職員 大井由紀子)

楽しかった。ホテルのバイキングが良かった。鉄道博物館が楽しかった。全国の仲間と友達になれた。仲間から「よろしくね」と言われて感動した。2日間、本当に楽しかった。次回の滋賀大会にも行きたい。

(みやま工房 利用者 丸山しず男)

楽しかった。いつもと違うものを食べた。全国の仲間と交流した。緊張した。また、行きたい。疲れた。(みやま工房 利用者 安澤ひな)

きょうされん全国大会に参加して話ができてよかった。いい勉強になった。ゲームや歌を歌って楽しかった。(みやま工房 利用者 八木原純子)

きょうされん全国大会へ行ってとてもよい経験になりました。平和はとても大切であります。(みやま工房 利用者 中嶋健人)

きょうされん第46回全国大会 in 埼玉レポート(その3)

今回、「きょうされん第46回全国大会 in 埼玉」に参加した利用者さんの丸山さんと中嶋さんはホテルに宿泊して2日間参加しました。コロナ禍で山脈はレクリエーションを自粛していましたので、ふたりにとっては久しぶりの1泊旅行です。

旅はふたりに色々な経験を与えてくれます。例えば、夕食を食べにホテル近くのレストラン街へ行った時のことです。「夕食はふたりが食べたいお店に行こう」と言うと、丸山さんが「ハンバーガーを食べたい」と言いました。すると、中嶋さんも同調し、お店はロッテリアに決まりました。丸山さんが美味しそうにハンバーガーを食べながら、「普段、なかなかハンバーガーは食べられないから」と言っていたのが印象的でした。丸山さんはグループホームに暮らしていて、平日の朝食と夕食はホームが提供する食事を取ります。また、お昼は通所しているみやま工房でお弁当を食べます。土曜日・日曜日はホームの食事提供はないので自分で食事を取るのですが、近くのコンビニのお弁当やパンとかが多いそうで、なかなかハンバーガー屋さんに行く機会はないそうです。

また、今回、ふたりはシングルの部屋に宿泊しました。中嶋さんは5月にきょうされんの全国総会に参加した際もシングルの部屋に宿泊したので今回は2回目です。丸山さんはひとりでシングルの部屋に泊まるのは初めての経験です。フロントでカードキーをもらい、部屋に着いたらカードキーの使い方、トイレ・シャワーの使い方、部屋の照明や備品類の説明をして、朝食の時間を伝えたら、後は部屋で朝までひとりで過ごしました。万が一のため、私の部屋の場所と番号を伝えましたが、朝まで呼ばれることはありませんでした。朝食のバイキングに行くため、約束の時間に部屋のドアをノックするとすっかり食事に行く準備をしたふたりが待っていました。

「何時頃に寝ましたか?」、「よく眠れましたか?」と聞くと、丸山さんは、「少しテレビを観て、9時頃に寝ました。」、「よく眠れました」と元気に答えが返ってきました。中嶋さんは、部屋に入ってすぐにシャワーを浴びてベットに入ったそうですが、早く3時間くらいで目が覚めてしまい寝不足だということでした。

旅先では、普段の支援を通じた関わりの中では見えないご本人の様子がわかり、新たな驚きや発見があります。コロナも明けて山脈も旅行などのレクリエーションを再開します。利用者さんとまた、旅行を楽しみたいですね。(ハーモニーやまなみ 職員 笹澤賢一)